



◇2018 参加者感想

【Kさん(18)：茨城地区】

僕が雪掘りキャンプに参加しようと思ったきっかけは、ボランティア活動に参加してみたかったからです。高校が自宅学習期間に入り、まとまった時間があり、前々から興味があった雪掘りキャンプに参加させていただきました。毎年敬和生の参加者やリピーターの多いキャンプだと聞いていたのでとても楽しみにしていました。

そんな気持ちですきた僕は活力に溢れていました。一回で少しでも多くの雪を掻こうと雪の壁に力任せにスノーダンプを突き刺していました。乱暴な動きがたたって、すぐに息切れしてしまい、スノーダンプも破損してしまいました。それでも雪掘りはちっとも終わらず焦りを覚えました。

しかし、十日町の人とは違いました。とても丁寧に除雪の方法を教えてくださいました。力任せではなくゆっくりコツコツと継続して行くことが大切だと教わりました。雪とともに暮らすにはしっかり雪と向き合って生活して行くことだと思いました。また、雪掘りを通して、雪掘りを通して出会う地域の人との繋がりを大切にしてほしいと言われました。ボランティアをしにきている。助けにきている。そんなおごりを持っていた自分がとても恥ずかしく思えてきました。とても大切なことに気付かされました。

また、夜の学習では、片岡先生や柴田先生から放射線問題や被災支援について学ぶ時が与えられました。震災から長い月日が経ち、自分の記憶から薄れて行く震災を忘れてはいけない。被害は今も続いている。そのことを覚えておかなければいけない。そう警告されているような気がしました。このキャンプにリピーターが多い理由がわかりました。多くの人が震災についての学びを薄れさせてはいけないと考えたのかもしれない。

今回のキャンプで得た経験値はとても大きく、得た学びはとても深いです。この経験をこれからの生活に生かしていきたいです。来年もまたきたい！そう思えるキャンプでした。



【Mさん(40代)：茨城地区】

昨年に続いて、2回目の参加だった。2日目昼から参加させていただき、昨年よりは少し多くワークに参加することができた。メンバーは昨年と違う方も多く、新たな出会いが与えられた。十日町教会の方々との再会も、嬉しい時間であった。

夜の片岡舘也さんと柴田信也さんの話は、「相手の痛みを共有し、共に歩み続ける」ことの大切さ・重さを、改めて考えさせられた。1人1人の感想をその場で共有できたのも、とても豊かな時間だった。

土曜日夜方から、十日町雪まつりを楽しんだ。雪で作られた首里城のステージで、視界が遮られるほどの激しい吹雪の中で聴いた、岡本知高の Amazing grace は、胸にグッと迫るものがあった。毎朝、家の前の雪掘りから始まる生活をされている皆さんにとって、雪は少ないに越したことは無いものであろう。しかし、様々な雪像を作ってコンテストをしたり、吹雪の中で大勢の人と共に音楽を聴いたりすることで、ほんの短い時間でも、大雪を「楽しさを生み出す“恵み”」に変え、また翌日からの雪掘りのエネルギーにつなげる、そんな知恵がこの雪まつりには込められているのだということを感じた。

日曜日の朝、雪が降る中、教会前の駐車場や道路の除雪をした。しばらく作業をしてからふと振り返ると、さっきキレイにした駐車場が、もう雪に覆われていた。徒労感を感じつつ周囲を見渡すと、そのような状況の中で、近所の方々が黙々と作業をされていた。久保田牧師が「この地域の方々にはまだまだかなわない」と言っていた意味が、ほんの少しわかった気がした。

青年中心のキャンプなので、多くの若い方々に参加していただきたいが、人数枠が許されるのであれば、また来年も参加させていただきたいと思っている。

【Iさん(18)：群馬地区】

今回初めて雪掘りキャンプに参加しました。自分の身長以上の高さに積もった雪を初めて見ました。この雪を除雪すると思うと、とても気の遠くなるような作業だと思いました。しかし、現地の方々は、それを毎日やっていて、雪をどかさなければ次の日に家から出られなくなる、などの事態になってしまうと聞いた時に驚きました。また、雪が積もってできた山の上

で除雪をしていると、足が沈んだり、道具を落としてしまったりなどいっぱいになって除雪していましたが、お年寄りの方でも、そこで平然と除雪している姿を見て、とても驚きました。

今回キャンプに参加して、その除雪がどれほど大変なことかたくさん経験することができました。微力ながらもみなさんの力になることができ良かったと思っています。

【Yさん(40代):茨城地区】

昨年に引き続き、2回目の参加でした。昨年参加してからは、新潟の天気予報が気に入り、雪の予報を見るたびに、十日町の皆さんががんばっているんだろうなーと日々思っていました。

雪が多い今年は、昨年雪掘りをした所は全く様子が違って、道を作るところからのスタートでした。近所の方が通る細い道が、2メートル近い雪で覆われ、そこに足跡があったので、少しでも楽に通れるようにと、そこに集中して作業を進めました。黙々と掘り続け、水路に雪を落とす……。限られた時間の中で、焦りながらもどうにか道を通すことができました。1時間後にそこを通ると、誰かの足跡があり、良かったと達成感を味わいました。しかしその翌日、1日でまたひざ上まで積もっていました。これを毎日するのか……。徒労感とはこのことだったのか。雪国の皆さんは、淡々と雪を掘ると聞きました。毎日毎日続く雪との生活、雪が降っている中、数分外に出ただけでも体に積もる雪、車を出すだけでも車の周りの雪かきから始まる生活。短い数日の経験でしたが、雪国の生活、自然と向き合う生活を、少しでも知ることができました。

夜の講演会は、自分の生き方を考えさせられるお話でした。「誰と生きていくのか」という問いは、毎日、自分に問いかけて過ごしていきたいと思います。

昨年お会いしたメンバーとの再会、新しい友との出会い。私にとって、とても安心できる場所でした。キャンプを支えて下さった皆様に、感謝の気持ちでいっぱいです。



【Tさん(21):新潟地区】

初めて雪堀に参加しました。経験がなかったので体力的にも技術的にも不安がありましたが、一緒に雪堀をしたメンバーと会話しながら帰るまで楽しく行うことができました。夜にお聞きしたお話も、心に刺さるものがあり印象に残っています。普段なかなかじっくりお話を聞くことがないので良い機会だったと思います。今の日本の問題や政府のあり方、そして自分自身のあり方について深く問いかげられました。自分で考えることの必要性を強く感じた会でした。教会員の方々との交流もとても楽しかったです。喜んで迎えてくださり、一緒におやつを食べてくださいました。地域の方のお話を直接聞くことで、十日町での生活を少しでも理解できたのではと思います。今まで十日町雪堀キャンプの存在は知っていましたが、参加していませんでした。楽しい中にも大きな学びがあって、もっと早く参加していればと思いました。暖かく迎えてくださった十日町の方々と、このキャンプを支えてくださっている皆様に感謝です。

【Hさん(12):茨城地区】

昨年参加してから、ときどき十日町のことを思い出しています。今年も雪が多いと聞いてどうしているのかと思っていました。雪を掘って流す作業は雪が重くて大変でした。けれど他の人たちと一緒に頑張りました。道ができたときは嬉しかったです。雪像作りはドラえもんの手とかを作るのはたいへんでしたが楽しかったし、上手にできたと思いました。夜は高校生たちとたくさんおしゃべりもして仲良くなれて嬉しかったです。

【Rさん(40代):茨城地区】

昨年に続き今年も参加しました。今回私に与えられたお仕事は、積雪によりふさがれてしまった教会と隣家の間に道を作ると言う作業。約2メートルもある雪の壁の向こう側に隣家の2階部分があるのを見て途方に暮れるような思いでした。目の前にある雪の固まりを掘り起こして流雪溝に流す作業を繰り返しながら、このようなことを日常の中でただ淡々とこなしていく、この土地の方々の生活があるということを知りました。私がしたことはその生活を体験させていただいたことにすぎません。十日町教会の方々には心温まる歓迎をしていただきました。この土地の方々と交わりの時を過ごせたことは恵みでした。

また、夜には学びの時があり、時がたつにつれて薄れていく記憶・意識があるということであらためて感じました。語り伝えていくことの大切さを思います。

知らないことがまだまだたくさんあります。知らなくてはいけないと強く思います。イエスさまがいつも一緒にいてくださることを思う時、「寄り添う」事の意味を考えます。出会いに感謝致します。

